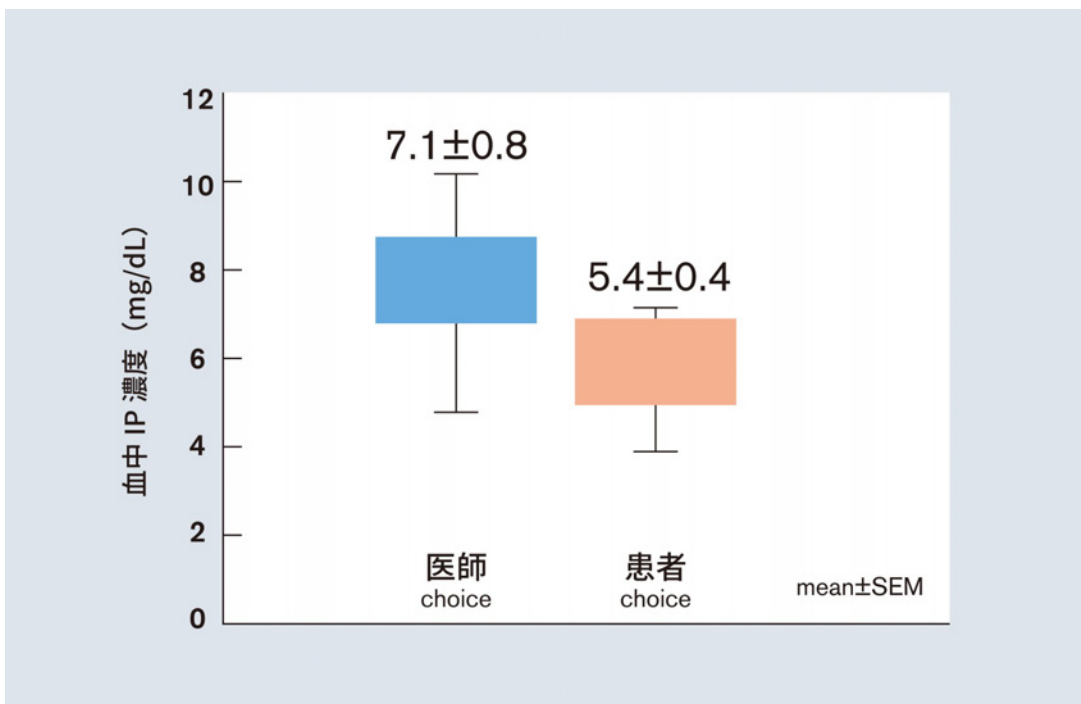


「長時間透析や頻回透析ではベッドのやりくりにも苦労する面もありますが、患者さんの『こうしたい』という気持ちを可能な限り尊重することで、医療へのモチベーションを維持してもらっています」と、あくまで患者の意思を第一に考えている。

患者指導に力を入れるようになってからは、各種薬剤の特徴などを伝えただけで、服用する薬を自分で選んでもらう「患者 choice」も導入した。

「たとえば、高リン血症の患者さんには、各種リン吸着薬の大きさや副作用などを説明したうえで、自分で選んでいただきます。この仕組みを導入したことにより、医師が選んだ薬を処方していた時代に比べて、血中P濃度が大きく改善する患者さんも複数出てきて効果を実感しています」(図3)

図3 高リン血症の患者 リン吸着薬の患者 choice 導入後の血中P濃度



※岸田クリニック提供の図を元に作成

#### <試験概要>

目的：患者自身がリン吸着剤薬を選んで服薬した場合の血中P濃度への影響を検討する。

対象：血液透析を受けていて、かつリン吸着薬を内服している慢性腎臓病患者63名  
(平均年齢69.3歳、男性33名：女性30名)。

方法：血液透析を受けていて、かつリン吸着薬を内服している慢性腎臓病患者75名にアンケートを実施。適正回答を得た63名の患者を対象に、医師が選んだリン吸着薬服薬時期の血中P濃度(医師 choice)と患者自身で選び服薬するようになった後の血中P濃度(患者 choice)を比較した。